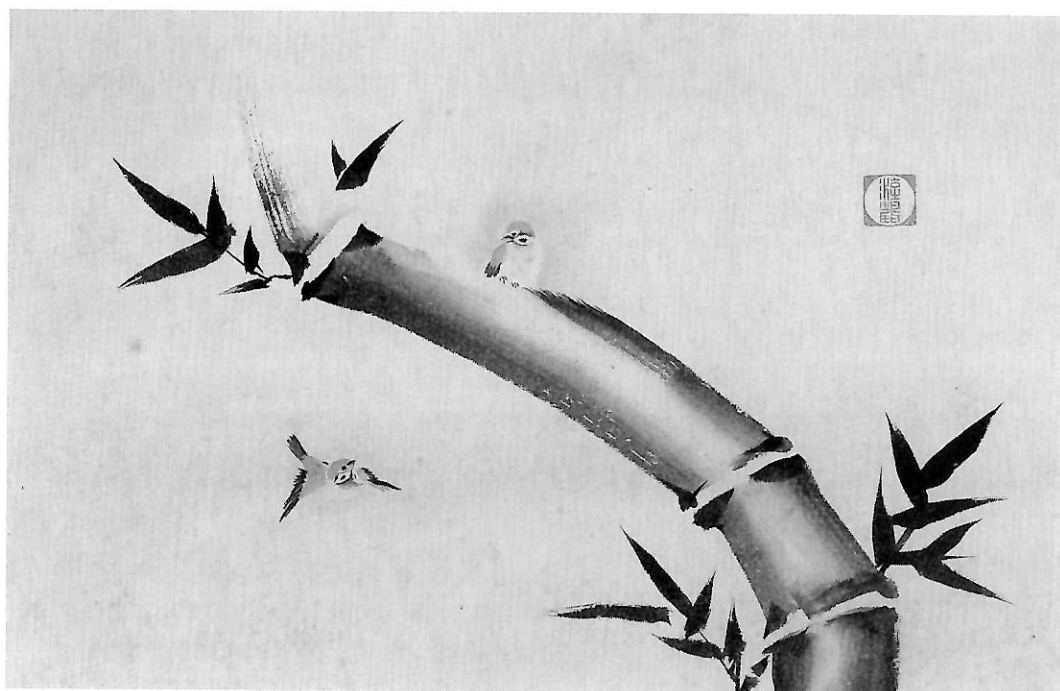




徳川家慶筆「竹金雀図」

目 次

博物館のあゆみ

平成14年度	2
平成15年度	7
博物館の名品	12

博物館のあゆみ

平成14年度

館内業務

1. 特別展

○特別展「徳川將軍家伝来 人形とひな道具」

会期＝平成14年3月3日～4月8日

徳川記念財団設立準備室と共催し、静岡鉄道株式会社の特別協力を得て、開催。天璋院・和宮遺愛の人形やひな道具100余点を展示。

○特別展「徳川將軍家のお雛さま」

会期＝平成15年3月1日～4月6日

徳川記念財団設立準備室（4月1日付で財団法人徳川記念財団となる）と共催し、江戸開府400年を記念して徳川宗家資料の雛人形・雛道具・御所人形及び書画約100点を展示。特別協力は静岡鉄道株式会社。

2. 平常展

○会期＝平成14年4月9日～6月30日

館蔵の家康遺品を中心に徳川宗家資料を加え約120点を展示。

○会期＝平成14年7月1日～9月30日

館蔵の甲冑・刀剣・書画・調度品に徳川宗家資料を加え約100点を展示。

○会期＝平成14年10月1日～12月31日

館蔵の書画・古文書を中心に徳川宗家資料を加え約120点を展示。

○会期＝平成15年1月1日～2月28日

館蔵の優品・徳川宗家資料等100点を展示。

3. 図書の出版

○平成14年5月21日、館蔵品図録『久能山東照宮博物館100選』（三刷）を出版。部数4000部。制作は（株）大塚巧藝社。

4. 資料の撮影

○平成14年8月8日、艸藝社に依頼し、大黒頭巾形兜（写形）と島左近の兜のカラー撮影を行った。

5. 館報第17号の発行

○平成14年8月31日、平成12・13年度の博物館のあゆみを報告する「館報第17号」を発行し、関係諸機関に配布。

6. 資料の寄贈

○平成15年3月15日、日本美術刀剣保存協会横浜支部より、重文太刀無銘光世作の写し1口の寄贈を受けた。

館 外 業 務

1. 資料の出品

- 特別展「火縄銃—合戦の流れを変えた武器の登場—」

会期・平成14年10月5日～11月4日

会場・名古屋城天守閣

重文火縄銃（付属品とも）を出品。

- 「大御所時代—柳営春秋 姫君佳麗—展」

会期・平成14年10月8日～11月10日

会場・水戸市立博物館

貫衆具足と紅絲威具足を出品。

- 特別展「変わり兜—戦国の終わりと桃山文化の訪れ—」

会期・平成14年10月12日～11月17日

会場・神奈川県立歴史博物館

重文大黒頭巾形兜・金陀美三枚張頭形兜と角頭巾形兜・椎形兜を出品。

- 特別展「愛でられた花と鳥」

会期・平成15年1月1日～1月28日

会場・熱田神宮宝物館

重文鶯蒔絵香具箱・雁蒔絵冠桶を出品。

- 特別展「南蛮—信長・秀吉・家康のみた東西交流—」

会期・平成15年3月1日～3月30日

会場・岐阜市歴史博物館

重文洋時計・目器・高麗鉢・びいどろ壺を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成14年5月24日

会場・静岡県立美術館

平成14年度総会が開催され、藤田副館長・小林学芸部長が出席。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成14年7月4日

会場・静岡県立美術館

平成14年度総会が開催され、藤田副館長・小林学芸部長が出席。翌7月5日に総会参加者一行が当館を視察。

4. 大名道具収蔵館集會

期日・平成14年9月28日～29日

会場・米沢市上杉博物館

第11回集會が開催され、小林学芸部長が出席。

研究会の後、会場館や上杉家菩提寺を視察。

5. 全国博物館大会

期日・平成14年11月15日～16日

第50回大会が宮崎市で開催され、落合館長が出席。

庶務報告

1. 平成14年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	3,492	270	658	292	419	77	5,208
5月	3,963	405	1,002	309	517	27	6,223
6月	2,324	139	951	202	236	21	3,873
7月	2,034	209	285	178	251	22	2,979
8月	3,316	588	131	448	390	9	4,882
9月	2,304	183	517	219	246	25	3,494
10月	2,557	115	1,343	185	557	15	4,772
11月	2,912	613	1,156	416	491	37	5,625
12月	1,082	180	150	146	54	4	1,616
1月	3,240	338	478	422	208	44	4,730
2月	2,460	154	851	273	202	33	3,973
3月	8,240	591	1,091	637	361	194	11,114
計	37,924	3,785	8,613	3,727	3,932	508	58,489

2. その他

- 4月3日、空調機器ブレーカーを修理。
- 4月9日、特別展の撤収に徳川記念財団設立準備室学芸員柳田直美・徳川典子両氏来館。
- 4月10日、特別展の資料返品のため、小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 4月11日、本年度展示用の徳川宗家資料搬入。
- 4月15日、英国レディング大学アランウィリアムス博士が甲冑視察に来館。
- 4月23日、平群史蹟を守る会坂本雅央氏・平群町教育委員会村社仁史氏が島左近の兜の件で来館。
- 5月3日、産経新聞社編集局静岡支局記者乙津綾子氏が当館を取材。
- 5月5日、子供の日により小人を無料とした。
- 5月10日、7月17日、9月20日、11月8日及び12月24日、徳川宗家資料の飾付に徳川記念財団設立準備室学芸員柳田直美・徳川典子両氏来館。
- 5月16日、徳川宗家資料調査のため、小林学芸部長が徳川記念財団設立準備室へ出向。
- 5月23日、静岡市立千代田東小学校6年鈴木・風間君等が自由学習で来館。
- 5月29日、松浦國男前館長が他界。
- 6月11日、ハロン点検。
- 6月18日、日本博物館協会の評議員会に落合館長が出席。
- 6月26日、徳島県立博物館人文課長山川浩実氏が出品依頼に来館。
- 7月9日、岐阜市歴史博物館学芸員土山公仁・稲川由利子両氏が出品依頼に来館。

- 7 月 18 日、岡崎市観光ガイド一行が来館。
- 7 月 25 日、館内の温度を 23℃ に変更。
- 7 月 26 日、館報の用務で小林学芸部長が榊大塚巧藝社へ出向。
- 8 月 8 日、空調機器を点検。
- 8 月 10 日、静岡市立高松中学校 3 年秋山・増田君等 5 名が体験学習で来館。
- 8 月 15 日、中部電気保安協会が館内を点検。
- 8 月 25 日、歴史探訪の旅参加者 40 名が来館。
- 9 月 11 日、愛媛県文化博物館の依頼により、西条松平家伝来の家康和歌を小林学芸部長が調査。
- 9 月 14 日、日本美術刀剣保存協会横浜支部小泉富太郎氏・工藤弘氏が太刀三池を特別拝観。
- 9 月 27 日、名古屋城学芸員小嶋泉氏が出品依頼に来館。
- 10 月 6 日、「大御所時代」展の飾付に小林学芸部長が水戸市立博物館へ出向。
- 10 月 7 日、「大御所時代」展の開催式に落合館長が出席。
- 11 月 11 日、「大御所時代」展の撤収に小林学芸部長が水戸市立博物館へ出向。
- 11 月 19 日、旧大塚巧藝社鶴田孝一氏夫人の葬儀に藤田副館長・小林学芸部長が参列。
- 11 月 26 日、館内の温度を 20℃ に変更。
- 11 月 27 日、江戸開府 400 年記念「徳川将軍家展」の資料調査に小林学芸部長が徳川林政史研究所へ出向。
- 12 月 16 日、来春の企画展会議に小林学芸部長が徳川記念財団設立準備室へ出向。
- 12 月 26 日、能美防災が消火設備を点検。
- 1 月 16 日、彦根城博物館前館長井伊正弘氏の葬儀（於東京 豪徳寺）に落合館長・小林学芸部長が参列。
- 1 月 23 日、防災設備を点検。
- 2 月 7 日（於江戸東京博物館）及び 3 月 14 日（於 NHK プロモーション）、江戸開府 400 年記念「徳川将軍家展」の企画会議に小林学芸部長が出席。
- 2 月 18 日、静岡ケーブルテレビが当館を取材・撮影。
- 2 月 19 日、静岡デジタルが洋時計・白檀塗具足・家康像を取材・撮影。
- 2 月 27 日、空調設備のフィルターを交換。
徳川宗家資料の借用に小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 2 月 28 日、特別展の飾付に徳川記念財団設立準備室学芸員柳田直美・徳川典子両氏が来館。
- 3 月 1 日、特別展の取材に NHK、静岡放送、テレビ静岡、静岡第 1 テレビ、朝日新聞社、中日新聞社の記者が来館。
- 3 月 2 日、毎日新聞社が特別展を取材。
- 3 月 3 日、静岡朝日テレビが特別展を取材。
- 3 月 16 日、三郷市史講座所理喜夫氏一行来館。
- 3 月 25 日、徳川宗家資料の東京移管のため、小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 3 月 31 日、「徳川将軍家展」出陳資料の撮影に小林学芸部長が大阪青山短大へ出向。
- その外、この期間に下記の方々が来館した。

金本勝三郎氏（日本家系図学会副会長、4 月 2 日）、常田貞子氏（静寛院和宮奉賛会、4 月 2 日）、徳川家広氏（徳川宗家令息、4 月 4 日）、井出洋子氏（故井出孝氏夫人、4 月

4日)、宍戸忠男氏(有職研究家、4月5日)、徳川恒孝氏・徳川幸子氏(徳川宗家・同令室、4月17日、2月28日及び3月1日)、徳川義宣氏(徳川美術館館長、4月17日)、三木文年氏(徳川宗家執事、4月17日)、鵜田孝一氏(大塚巧藝社、4月17日、5月21日、艸藝社、8月8日及び9日)、下平昌男氏(菊葵館準備室代表、4月29日)、桒屋幹夫氏(浜松観光ボランティアガイドの会、5月15日)、大畑しげる氏・深見美奈氏(静岡市健康文化部、5月21日)、池谷正氏(静岡新聞社事業局長、6月8日)、有馬頼底氏(相国寺責任役員、6月8日)、後藤正人氏(静岡県文化課、6月23日及び11月30日)、八木清勝氏(建築文化研究所、7月24日)、井口信久氏(川越市教育委員会、8月5日及び12月31日)、堤公長氏(宮内庁、10月2日)、松平乗昌氏(霞会館資料展示委員会副委員長、10月2日及び11月16日)、鳥居和郎氏(神奈川県立歴史博物館学芸員、10月4日、11月6日及び26日)、古川元也氏(同上、10月4日及び11月26日)、日原盛幸氏(元久能山東照宮権祢宜、10月23日)、小林一哉氏(静岡新聞社編集局、11月1日)、上野英房氏(同制作技術局長、11月1日)、小嶋泉氏(名古屋城学芸員、11月7日)、国科忠氏(ライコーKKディレクター、11月8日)、大口裕子氏(霞会館資料展示委員会、11月16日及び3月27日)、鈴木勝明氏・佐藤誠氏(中部資材、11月22日)、越智裕二郎氏(兵庫県立近代美術館、11月23日)、桜井利正氏(元久能山東照宮権祢宜、11月27日)、多賀顕氏・内田雅之氏(熱田神宮宝物館、12月23日及び2月3日)、渡辺一弘氏(静岡市文化部、1月10日)、北村善行氏(シーアンドシー、1月29日、2月4日及び12日)、斎藤曜氏(国学院大学、2月9日)、奥出賢治氏(名古屋市博物館、2月14日)、大石真規子氏(静岡第1テレビディレクター、2月14日及び28日)、栗原グレン氏・松永国宏氏(静岡ケーブルテレビ、2月18日)、遠藤昌子氏(静岡デジタルリポーター、2月19日)、新田実氏(元静岡県史編さん室、2月22日)、石川英希氏(静岡第1テレビディレクター、2月25日、28日及び3月1日)、稲川由利子氏(岐阜市歴史博物館学芸員、2月26日)、廣瀬公威氏・徳川典子氏・柳田直美氏(徳川記念財団設立準備室、2月28日及び3月1日)、小宮山公文氏・安田元彦氏(静岡第1テレビ、2月28日)、望月伸嘉氏(お茶の郷博物館、3月1日)、渥美龍太氏(中日新聞記者、3月1日)、鈴木英世氏(毎日新聞記者、3月2日)、原山充志氏(京都市考古資料館、3月3日)、小西雅徳氏(板橋区郷土資料館、3月12日)、小泉富太郎氏・工藤弘氏(日本美術刀剣保存協会、3月15日)、千葉功夫氏(瑞鳳殿、3月17日)、土山公仁氏(岐阜市歴史博物館、3月17日)、松平康氏・吉田さち子氏(霞会館資料展示委員会、3月27日)。

平成15年度

館 内 業 務

1. 特別展

○特別展「徳川将軍家のお雛さま」

会期＝平成15年3月1日～4月6日

江戸開府400年を記念し、(財)徳川記念財団と共催。特別協力は静岡鉄道株式会社。

○特別展「徳川将軍家ゆかりの人形とひな道具」

会期＝平成16年2月28日～4月4日

(財)徳川記念財団と共催し、静岡新聞社・SBS静岡放送の後援、静岡鉄道株式会社の特別協力を得て開催。天璋院・和宮の遺愛品に旧伯爵寺島家の伝世品を加え約100点を展示。

2. 小企画展「徳川将軍家伝来 染織と武具」

会期＝平成15年10月16日～11月16日

江戸開府400年を記念し、(財)徳川記念財団と共催し、将軍及び御台所等の遺品の中より戦陣装束・小袖・打掛・甲冑の優品約80点を展示。

3. 平常展

○会期＝平成15年4月7日～10月15日

館蔵の美術工芸品に(財)徳川記念財団所蔵の書画を合わせ展示。

○会期＝平成15年11月17日～平成16年2月27日

館蔵品と(財)徳川記念財団蔵品を展示。

4. 資料の寄託

○平成15年6月26日、静岡の石州流より片桐石州画像等15件の寄託を受けた。



重文 鷺蒔絵香具箱 蓋表

館 外 業 務

1. 資料の出品

- 企画展「歴史を決めた戦い—信長の抬頭から家康の覇権まで—」

会期・平成15年 4月22日～5月25日

会場・徳島県立博物館

重文火縄銃、金扇馬標、織田信長黒印状を出品。

- 「江戸開府400年記念 徳川將軍家展」

①会期・平成15年 5月24日～7月6日

会場・岡崎市美術博物館

②会期・平成15年 7月19日～8月31日

会場・江戸東京博物館

③会期・平成15年 9月20日～10月26日

会場・静岡県立美術館

重文菌朶具足・太刀光世、金扇馬標、貫衆具足、洋犬図を出品。

- 「江戸開府400年 東照宮展」

会期・平成15年 9月13日～10月13日

会場・鳥取市歴史博物館

東照大権現像（天海賛）、徳川家康像、後水尾天皇宸翰神号、鷲図、久能山絵図、徳川秀忠・家光杜領寄進状、老中連署状、重文宣旨案・伝記案・脇息・杖を出品。

- 特別展「仁孝天皇 泰平の余芳—幕末の宮廷と柳営—」

会期・平成15年10月11日～11月24日

会場・明治神宮文化館

徳川家慶筆「竹金雀図」、精姫筆「真砂の數」、同和歌短冊を出品。

- 「日本の砲術—和流砲術から西洋流砲術へ—展」

会期・平成16年 2月7日～3月21日

会場・板橋区立郷土資料館

重文火縄銃を出品。

- 特別展「鉄—攻めと護り・武士の美—」

会期・平成16年 2月28日～3月28日

会場・名古屋市博物館

重文頭形兜・火縄銃、貫衆具足、縹絲威具足、紺絲威鎧、八方白星兜、六十二間筋兜、大極旗を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成15年 6月25日

会場・静岡県立中央図書館

平成15年度総会が開催され、小林学芸部長が出席。

3. 大名道具収蔵館集會

期日・平成15年11月6日～7日

会場・柳川市 御花史料館

第12回集會が開催され、小林学芸部長が出席。研究会の後、同館と福厳寺を視察。

庶務報告

1. 平成15年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	3,358	300	598	235	366	38	4,895
5月	3,540	286	1,365	322	402	3	5,918
6月	2,337	118	838	237	196	23	3,749
7月	1,884	160	528	177	211	11	3,749
8月	2,445	477	417	478	262	13	2,971
9月	2,154	94	709	274	214	20	4,092
10月	2,734	206	1,474	310	424	27	5,175
11月	3,159	121	1,229	296	529	26	5,360
12月	1,507	70	419	121	115	31	2,263
1月	3,881	320	585	230	178	38	5,232
2月	3,467	308	706	159	186	39	4,865
3月	5,780	407	1,141	240	310	139	8,017
計	36,246	2,867	10,009	3,079	3,393	408	56,002

2. その他

- 4月7日、特別展の撤収に(財)徳川記念財団学芸員柳田直美・徳川典子両氏が来館。
- 4月8日、資料返却に小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 4月22日、江戸開府400年記念「徳川将軍家展」の企画会議（於NHKプロモーション）に小林学芸部長が出席。
- 4月30日及び7月3日、徳川宗家資料の展示替えに(財)徳川記念財団学芸員柳田直美・徳川典子両氏来館。
- 5月5日、子供の日により父兄同伴の子供を無料とした。
- 5月21日～24日、「徳川将軍家展」の飾付に小林学芸部長が岡崎市美術博物館へ出向。
- 6月16日、「徳川将軍家展」の展示替えに小林学芸部長が岡崎市美術博物館へ出向。
- 6月22日、特別展を記念し小林学芸部長が岡崎市美術博物館で講演。演題「将軍家茂と和宮」。
- 7月3日、能美防災が装置の器具を点検。
- 7月7日～8日、「徳川将軍家展」の撤収に小林学芸部長が岡崎市美術博物館へ出向。
- 7月16日～18日、「徳川将軍家展」の飾付に小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 7月18日、「徳川将軍家展」の開会式に落合館長が出席。
- 7月25日、館内の温度を23℃に変更。
- 8月7日、空調設備の機器を点検。
- 8月11日、「徳川将軍家展」の展示替えに小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。

- 8月12日、(財)徳川記念財団の企画展会議に小林学芸部長が出席。
- 8月26日、大阪朝日テレビが慶喜のカメラを取材・撮影。
- 9月1日、「徳川将軍家展」の撤収に小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 9月2日、特別展の用件で小林学芸部長が浜松市美術館へ出向。
- 9月17日～19日、「徳川将軍家展」の飾付に小林学芸部長が静岡県立美術館へ出向。
- 9月19日、「徳川将軍家展」の開会式に落合館長、藤田副館長、仁科会計主任が出席。
- 10月3日、NHK静岡放送局で小林学芸部長が「徳川将軍家展」の見どころを紹介。
- 10月9日、(財)徳川記念財団の平常展示資料返却に小林学芸部長が東京へ出向。
- 10月14日、「徳川将軍家展」の展示替えに小林学芸部長が静岡県立美術館へ出向。
- 10月27日～28日、「徳川将軍家展」の撤収に小林学芸部長が静岡県立美術館へ出向。
- 11月14日、国学院大学名誉教授加藤有次氏の葬儀（於小平市延命寺会館）に小林学芸部長が参列。
- 11月26日、特別展会場視察等に小林学芸部長が浜松市美術館へ出向。
- 12月15日、館内の温度を20℃に変更。
- 12月17日、平成16年度の(財)徳川記念財団企画展会議（於財団事務所）に小林学芸部長が出席。
- 12月25日、能美防災がハロンを点検。
- 1月20日（於浜松市美術館）及び3月26日（於当館）、特別展「徳川将軍家の遺宝」の企画会議に小林学芸部長が出席。
- 2月3日、静岡籠上中学2年生岩本君等5名が研究活動で来館。
- 2月17日、静岡高校中学生永井君等6名が研究活動で来館。
- 2月25日～26日、特別展の資料借用に小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 2月28日、SBS静岡放送及び静岡新聞社社会部が特別展を取材。
- 3月3日、NHK静岡放送局が特別展を取材。
- 3月9日、空調のフィルターを交換。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。

田代和生氏（慶応大学教授、4月1日）、田原昇氏（慶応大学研究員、4月1日）、稲川由利子氏（岐阜市歴史博物館学芸員、4月3日）、なでしこ会7名（4月3日）、藤口悦子氏（鍋島報効会、4月5日）、山川浩実氏（徳島県立博物館学芸課長、4月13日及び5月28日）、徳川義宣氏（徳川美術館長、4月17日）、鵜田孝一氏（艸藝社代表取締役、4月17日及び11月12日）、吉岡信之氏（艸藝社、4月17日）、山口聡太郎氏（山口墨仁堂代表、4月27日）、伊藤康晴氏（鳥取市歴史博物館学芸員、5月2日）、森田明子氏（同上、5月2日、9月4日及び10月19日）、鷹野喜彦氏（NHK事業局、5月20日）、飯田真氏（静岡県立美術館主任学芸員、5月20日及び10月29日）、佐藤恵重氏（千葉県校長会、6月6日）、加藤栄一氏（新潟産業大学教授、6月6日）、行武和博氏（東大史料編纂所、6月6日）、望月康良氏（第二静岡学園人事課長、6月6日）、野上裕氏（日本テレビディレクター、6月13日）、長縄典夫氏（春日井市役所課長補佐、6月21日）、吉田健司氏（大阪朝日テレビ課長、7月19日及び8月26日）、細井敏夫氏（浜松市美術館、7月25日及び3月26日）、今田徹氏（浜松市美術館学芸員、7月25日）、望月伸嘉氏（金谷町お茶の郷博物館、7月28日及び10月26日）、赤池京子氏（ライター、7月31日）、石田弘幸氏（元静岡県史編さん室、7月31日）、風間秀夫氏・風岡和義氏（9月4日）、堤公長氏（宮内庁、9月27日）、大口裕子氏（霞会館資料展示委員会、9月27日及び11月28

日)、柳田直美氏 (〈財〉徳川記念財団主任学芸員、10月8日、15日、26日、11月16日及び3月26日)、徳川典子氏 (同上学芸員、10月8日、15日、26日及び2月27日)、重名桜氏 (NHKプロモーション、10月29日)、山浦英雄氏 (浅羽町郷土資料館長、11月5日)、丸尾正氏 (静岡新聞社事業局次長、11月26日)、ヘンク・ベルンレフ氏、ウィレム・ファン・トールン氏 (詩人、11月26日)、近藤紀子氏 (翻訳家、11月26日)、二神葉子氏・平賀あまな氏 (東京国立文化財研究所、11月26日)、松平乗昌氏 (霞会館資料展示委員会副委員長、11月28日)、町田市史考会50名 (11月30日)、国際文化財保存修復協力センター20名 (12月11日)、植松俊男氏 (静岡日通美梱、12月15日)、井口信久氏 (川越市教育委員会、12月31日)、八木敬介氏 (静岡新聞社記者、1月12日)、黒澤脩氏 (静岡市教育委員会、1月22日)、小川啓子氏 (SBSラジオキャスタードライバー、1月24日)、浅井保秀氏 (伊佐新次郎研究家、1月24日)、石井典子氏 (フリーライター、1月27日)、小西雅徳氏 (板橋区立郷土資料館学芸員、1月29日及び3月26日)、中里重幸氏 (東金市在、1月31日)、斎藤義明氏 (藤沢 泉秋寺住職、2月3日)、内山幸男氏 (朝日新聞社記者、2月5日)、鈴木公氏 (NHK文化センター静岡教室支社長、2月16日)、田口英爾氏 (梅蔭寺次郎長資料室代表、2月16日)、奥出賢治氏 (名古屋市博物館、2月19日)、小川幹生氏 (同上、2月19日・20日及び3月31日)、徳川恒孝氏 (〈財〉徳川記念財団理事長、2月27日及び3月21日)、徳川幸子氏 (同上理事、2月27日及び3月21日)、高木和徳氏 (静岡新聞社記者、2月28日)、安本収氏 (駿府博物館学芸部長、3月4日)、横山滋氏 (ガラス研究家、3月20日)、村上藤次郎氏 (古銃復元代表、3月20日)、芦川清司氏 (静岡県駿府火縄銃同好会、3月20日)、近衛忠輝氏 (陽明文庫、3月21日)、近衛甯子氏 (同上、3月21日)、市川寛明氏 (江戸東京博物館学芸員、3月24日)、田中良憲氏 (NHKプロモーション、3月24日)、廣瀬公威氏 (〈財〉徳川記念財団事務局長、3月26日)



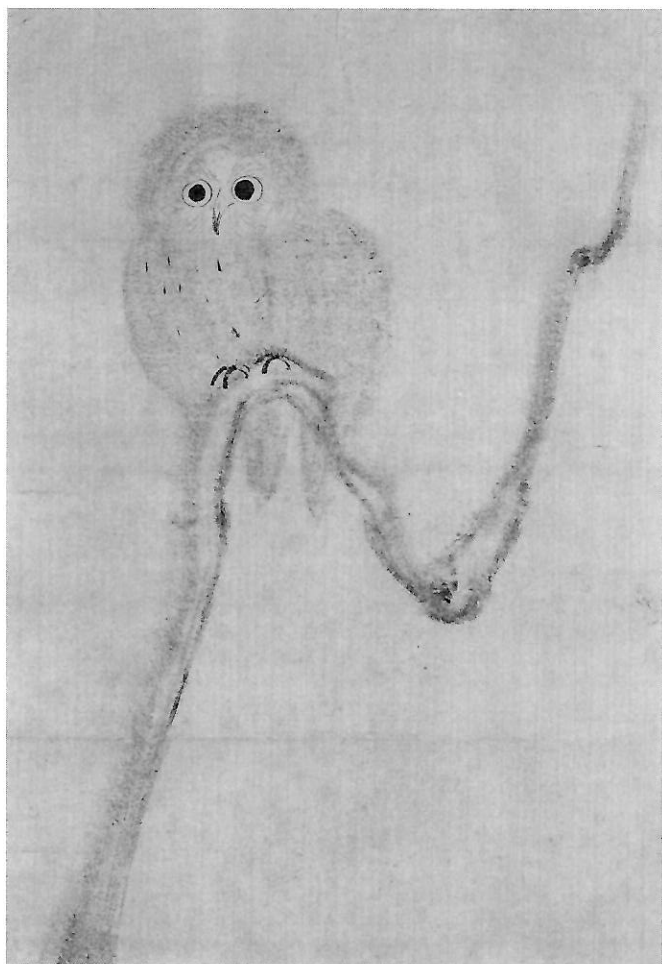
博物館の名品 37

重要文化財 齒朶具足（しだぐそく）1 領

徳川家康が霊夢により奈良の函工岩井与左衛門に命じて作らせたもので、御夢想形あるいは御霊夢形と称したが、兜に生革製（きがわせい）の齒朶の前立が添うところから齒朶具足とも呼ばれた。家康が関ヶ原合戦に着用し、大坂の陣にも身近かに置いて勝利を得たことで吉祥の鎧として尊ばれた。家康薨去後、久能山に安置されたが、三代将軍家光の代に江戸城へ移管され、将軍家の武器の筆頭に位置付けられた。四代将軍家綱はこの具足を模造して御写形と称し、毎年正月11日の具足の祝いに江戸城の黒書院に床飾りし、以後の将軍もこれに習うを例として幕末まで続いた。

兜鉢高19.0cm 胴高36.5cm 胴廻119.5cm 草摺高24.0cm

籠手高66.0cm 佩盾高53.0cm 臑当高33.5cm 総重量18900g



博物館の名品 38

枯木梟図（かれきふくろうず）1 幅

『本朝画工便覧』に「大猷院、画法ヲ狩野探幽ニ受ク、筆力盛ンニシテ奇ナリ、多ク富士山ヲ画ク」とあり、家光の画技は狩野探幽が指導したものと思われる。富士山の絵こそ伝わらないが、現存する家光の遺作は少なくなく、中に自賛や高僧の賛を伴うものもある。本図の如き、梟・木菟の図は好きな画題であつたらしく、安部信成、牧野信成、杉浦政清等に画き与えられたことが知られている（『寛政重修諸家譜』）。

紙本墨画 縦55.5cm 横38.2cm

明治22年 8 月 関口隆正奉納



博物館の名品 39

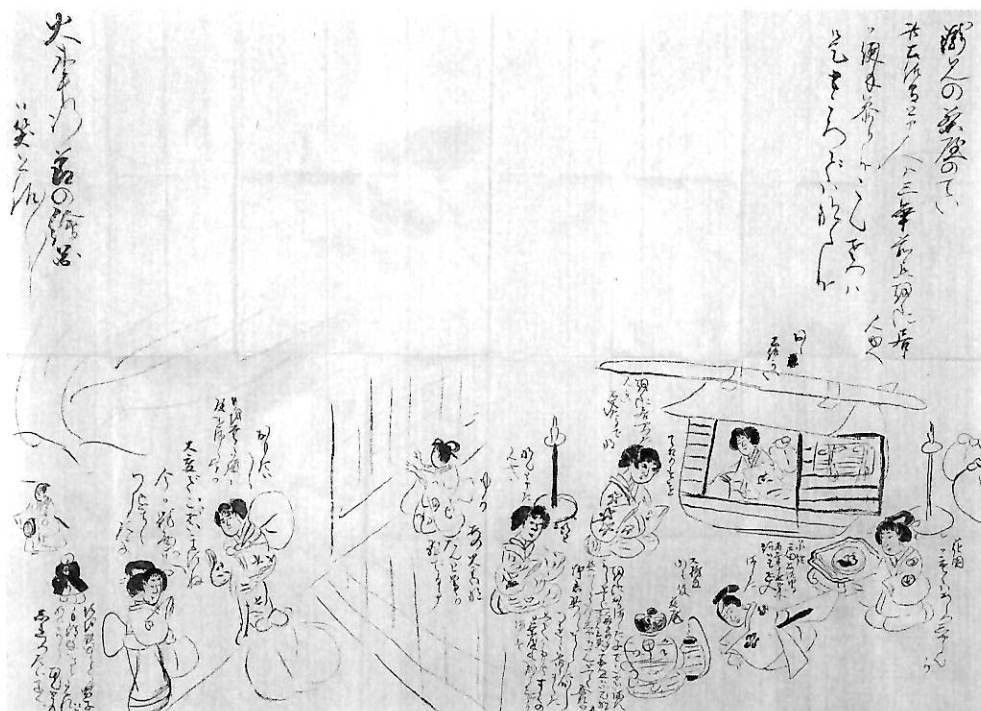
三大字「養其神」 1 幅

尚武の人、徳川家茂が馬術、剣術、槍術、砲術、柔術、弓術に熱中したことはいうまでもないが、将軍として学問にも余念がなく、儒者の講釋を度々聴聞していることが『御小姓頭取野村丹後守筆記』に散見する。ことに『論語』・『孟子』・『書経』・『詩経』・『大学』・『中庸』を好み、『論語』・『孟子』は幼時より素読し、その記憶力には近侍のものたちも驚き入ったと伝えられる。

本書は家茂の筆になるもので、「神」は精神（こころ）であり、『孟子』尽心に「存其心、養其性、所以事天也」とある「性」と同意であるから、同書に依ったものかと解される。文久元年（1861）8月4日、近臣の諏訪頼巧に書き与えたもので、家茂、時に若冠16歳。稚拙（ちせつ）ではあるが、氣迫みなぎる書である。

紙本墨書 縦135.4cm 横30.4cm

明治21年4月17日 駒井馬他奉納



博物館の名品 40

和宮戲画（かずのみやぎが）1枚

八條家に伝来した皇女和宮（1846～1877）の親筆になる唯一の絵画である。楮紙を二ツ折にした上部の左端に「火事の節の繪圖」と画題を記され、その左に「御笑くさ 御笑くさ 御笑くさ」とある。下半分には画面一杯に11人の人物が描かれ、名前や役職を注記されたところもある。注目されるのは各自の会話の言葉が筆にされていることで、後日、戯れに描かれたとはいえ、火事に遭遇された筆者和宮がいかにか冷静沈着に行動されたかが窺えよう。

紙本墨画 縦30.5cm 横43.0cm

久能山東照宮博物館報
—— 第 18 号 ——
平成16年 9 月17日 発行
編集発行 久能山東照宮博物館
〒422-8011 静岡市根古屋390
TEL.054(237)2437

印刷 有限会社艸藝社
〒104-0041 中央区新富1-15-14
TEL.03(5540)6421